

第1 内科研修プログラム

1. 循環器内科
2. 腎臓内科
3. 神経内科

I プログラムの一般目標 (GIO)

一般内科医として患者さんの全人的医療を実践するために、内科一般の総合的臨床能力を身に付け、倫理的、臨床疫学的、行動科学的、予防医学的、社会福祉学的、医療経済学的な知識を習得することを目的とする。

II 行動目標 (SBOs)

1. 患者さんの受診動機、既往歴、治療歴、嗜好、社会的背景などを考慮した礼儀正しい問診ができる。
2. 基本的な一般内科的診察が実践できる。
3. 診療録への記載の他、処方箋、指示箋、診療情報提供書、紹介状、退院サマリー、各種診断書、意見書などを書くことができる。
4. 必要に応じて専門家の意見を的確に仰ぐことができる。
5. EBMに基づく診断や治療法を導くことができる。
6. 適切なインフォームドコンセントを実践できる。
7. 医療安全に配慮した基本的な内科の検査や治療を実践できる。
8. 患者さんの診断・治療をチーム医療の一員として担うことができる。
9. QOL に配慮した総合的な診療計画（リハビリ、緩和医療、介護、延命治療などが含まれる）を立てることができる。
10. 個人情報保護に配慮した診療や臨床発表ができる。
11. 救急医療の一員として代表的な内科疾患に対応できる。
12. 予防医学的な立場から、簡単な健診や生活指導ができる。
13. 簡単な精神医学的診察と診療ができる。
14. 常に自己研鑽に努め、積極的に勉強会や学会に参加し、剖検や臨床発表を行う。

III 方略 (LS)

1. 原則として、指導医または上級医とともに新規入院患者の担当医となり、受け持ち患者の診療に従事する。
2. 病棟回診に帯同し、迅速に受け持ち患者以外の診療の概要を理解する能力を向上させる。
3. 毎週月・水曜日に開催されるカンファレンスに参加し、入院患者等に関する経過及び治療方針について積極的に討議する。

IV 習得すべき基本的手技

1. 静脈採血、動脈採血
2. 末梢静脈確保 中心静脈確保
3. 圧迫止血法
4. 胸水穿刺・ドレナージ

5. 脳脊髄液採取
6. 的確な心肺蘇生法
7. カウンターショック（除細動）

V 評価(EV)

1. EPOC による評価を行う。
2. 定められたレポートの提出により評価を行う。

1. 循環器内科研修プログラム

I プログラムの一般目標 (GIO)

内科的臨床能力を基礎として、循環器内科に必要な基本的知識と技術を習得する。

II 行動目標 (SBOs)

1. バイタルサインを正確に把握し、必要に応じて気道確保、人工呼吸、心マッサージ、除細動を行うことができる。
2. 聴診にて心音、心雑音などの所見をとることができる。
3. 胸部写真と心電図を正確に読むことができる。
4. 心電図を自ら検査することができる。
5. 心エコーの基本的な操作・判読ができる。
6. 動脈血を採取して自ら動脈血ガス分析を実施することができる。
7. 心臓カテーテル検査の助手を務めることができる。
8. 高血圧、不整脈、心不全、狭心症の診断とその基本的な薬物治療ができる。
9. 心臓リハビリテーション、核医学検査、冠動脈の MDCT、ペースメーカーなどを見学し、その適応、検査方法、合併症などが理解できる。

III 方略 (LS)

1. 指導医または上級医とともに入院患者の担当医となり、受け持ち患者の診療に従事する。
2. 病棟回診に帯同し、迅速に受け持ち患者以外の診療の概要を理解する能力を向上させる。
3. 指導医・上級医のもとで、心電図・ホルター心電図・胸腹部X-P・心エコー・CT・MRI・心筋シンチなどを読影する。
4. 指導医・上級医のもとで、心臓カテーテル検査・冠動脈及び末梢血管インターベンション治療・カテーテルアブレーション治療・ペースメーカー等デバイス植え込み手術に参加し、介助する。
5. 指導医・上級医のもとで、心臓リハビリテーション・WAON療法に携わる。
6. 全体討論及び外科との合同カンファレンスに参加し、積極的に討議する。
7. 指導医・上級医より心筋シンチレクチャー、心臓CTレクチャー、不整脈レクチャーを受ける。

IV 経験すべき症状

1. 動悸
2. 息切れ
3. 胸痛
4. 失神
5. 下肢の疼痛

経験すべき疾患

1. 高血圧
2. 不整脈
3. 狭心症

4. 心筋梗塞
5. 心不全
6. 心臓弁膜症
7. 閉塞性動脈硬化症
8. 深部静脈血栓症、急性肺動脈血栓塞栓症
9. 大動脈解離
10. 心筋症

V 評価 (EV)

1. EPOC による評価を行う。
2. レポートの提出により評価を行う。(浮腫、発熱、胸痛、動悸、呼吸困難、心不全、高血圧症)

2. 腎臓内科研修プログラム

I プログラムの一般目標 (GIO)

内科的臨床能力を基礎として、腎臓内科に必要な基本的知識と技術を習得する。

II 行動目標 (SBOs)

1. 尿検査を自ら行い、尿沈渣を正しく判定することができる。
2. 腎臓超音波検査の基本的な所見をとることができる。
3. 血液透析カテーテルを留置することができる。
4. 経皮的腎生検の助手を務めることができる。
5. 急性腎不全の病態を理解し、専門医の指導の元で全身管理ができる。
6. 慢性腎不全、水電解質異常、尿路感染症の診断とその基本的な治療ができる。
7. 腹膜透析、血液透析の適応、方法、合併症が理解できる。

III 方略 (LS)

1. 原則として、指導医または上級医とともに新規入院患者の担当医となり、受け持ち患者の診療に従事する。
2. 病棟回診に帯同し、迅速に受け持ち患者以外の診療の概要を理解する能力を向上させる。
3. 指導医・上級医のもとで、外来新患者の診察、検査指示を行う。
4. 指導医・上級医とともに腎臓病血液浄化センターの回診、指示を行う。
5. 指導医・上級医とともに集中治療室の回診、指示を行う。
6. 第一内科及び腎センターカンファレンスに参加し、積極的に討議する。

IV 経験すべき症状

1. 蛋白尿、血尿
2. 浮腫
3. 尿量異常
4. 腎性貧血

経験すべき疾患

1. 急性腎炎
2. 急性腎不全
3. 慢性腎不全
4. ネフローゼ症候群
5. 糖尿病性腎症
6. 尿路感染症

V 評価(EV)

1. EPOC による評価を行う。
2. レポートの提出により評価を行う。(腎不全)

3. 神経内科研修プログラム

I プログラムの一般目標 (GIO)

内科的臨床能力を基礎として、神経内科に必要な基本的知識と技術を習得する。

II 行動目標 (SBOs)

1. 神経症候学的な考え方にに基づき、基本的な神経学的診察ができる。
2. 電気生理学的検査（脳波、神経伝導検査、針筋電図検査、疲労検査、誘発電位検査）の適応と副作用が説明できる。
3. 筋生検、神経生検の助手を務めることができる。
4. 髄液検査を実施し、その結果を正しく判定できる。
5. 脳や脊髄の CT や MRI 検査について、その基本的な所見を読影できる。
6. 神経病理学の基本的な知識を持っている。
7. 脳血管障害、脳炎や髄膜炎、てんかんの診断と治療ができる。
8. 意識障害、認知症、運動障害、感覚障害の鑑別診断ができる。
9. 高次機能障害や運動障害のリハビリテーションについて基本的な知識を習得する。

III 方略 (LS)

1. 指導医または上級医とともに入院患者の担当医となり、受け持ち患者の診療に従事する。
2. 病棟回診に帯同し、迅速に受け持ち患者以外の診療の概要を理解する能力を向上させる。
3. 指導医・上級医のもとで、外来新患者の診察、検査指示を行う。
4. 指導医・上級医のもとで、CT、MRI、SPECT、脳波など判読する。
5. 指導医・上級医のもとで侵襲的検査・治療に携わる。

IV 経験すべき症状

1. 意識障害
2. けいれん
3. めまい
4. 頭痛
5. 言語障害
6. 嚥下障害
7. 歩行障害
8. 運動障害・筋委縮
9. 感覚障害
10. もの忘れ

経験すべき疾患

1. 脳血管障害
2. 脳炎、髄膜炎
3. 末梢神経障害

4. てんかん
5. パーキンソン症候群
6. アルツハイマー型認知症

V 評価(EV)

1. EPOC による評価を行う。
2. レポートの提出により評価を行う。

第1内科研修スケジュール

【循環器】

	月	火	水	木	金
9:00	オリエンテーション (第1週のみ)	心カテ	心カテ/救急	心カテ	心カテ
10:00	心カテ				
12:00	昼食/廻診	昼食/廻診	昼食/廻診	昼食/廻診	昼食/廻診
13:30	ペースメーカー 外来	心カテ	心カテ/救急	心カテ	心エコー
16:00	全体討論 (症例提示・ 抄読会)	心筋シンチ レクチャー (菊地)	心臓CT レクチャー (菊地)	外科との 合同カンファレ ンス	不整脈レクチャー (安田)
17:00					

受け持ち患者に関しては、毎日、事前に回診を済ませ指導医と方針等を相談する

【腎臓】

	月	火	水	木	金
午前	透析回診 / 病棟回診	透析回診 / 病棟回診	透析回診 / 病棟回診	透析回診 / 病棟回診 / 腹膜透析外来 (隔週)	透析回診 / 病棟回診 / 腎生検(予定)
午後	透析回診 / 病棟回診	透析回診 / 病棟回診	透析回診 / 病棟回診	透析回診 / 病棟回診	透析回診 / 病棟回診

第1内科
カンファレンス
水曜 18:30～

【神経】

	月	火	水	木	金
午前	外来研修	外来研修	外来研修	神経生理検査研修	外来研修
午後	病棟研修	脳ドック研修	病棟研修	脳ドック研修	病棟研修